

[成果情報名]半促成長期どりアスパラガスにおける夏季追加立茎の効果

[要約]夏季追加立茎により、翌春芽および翌夏芽前半（5～7月）が増収し、年間可販収量は同等以上となる。追加立茎時に中刈りを行うことにより、充実した立茎が可能となり、増収効果が高くなる。

[キーワード]半促成長期どり栽培、夏季追加立茎、中刈り、春芽増収

[担当]農林技術開発センター・農産園芸研究部門・野菜研究室

[連絡先]（代表）0957-26-3330

[区分]野菜

[分類]指導

[背景・ねらい]

アスパラガスの半促成長期どり栽培において、夏芽は年間収量の約60%を占めるが、農家の高齢化が進む中で、高温条件下での収穫・管理作業で農家負担が大きく、また、収穫労力の割には収益性が低い。また、夏場の高温時期の管理作業不足等により、年間単収・収益の減少が見られる。夏季追加立茎を行うと萌芽が抑制され夏場の収穫・管理作業時間の削減と翌春芽の増収が期待できる。一方、通常に追加立茎すると新茎葉が旧繁茂茎葉に阻害され充実した立茎ができない事例がある。そこで、夏季高温時期の追加立茎方法を検討し、収量に及ぼす効果について検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 夏季追加立茎法により、追加立茎以降の夏芽は約70%減少するが、翌春芽の収穫開始が早まり、翌夏芽前半(5～7月)までのL級以上が増収するため、年間可販収量は慣行と同等以上になる（表1、図1、図2、図3）。
2. 追加立茎時に中刈りすることにより、追加立茎のみと比較して、M級以上が増収し、可販収量が增大する（表1、図2、図3）。
3. 追加立茎時に中刈りすることにより、採光が図られ、新茎の伸びる空間が確保でき、充実した立茎が可能となる。（写真1、写真2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 試験は間口6m、3畝栽培、畝幅100cm、高さ30cmプラスチック枠成形隔離床で実施。
2. 2008年3月定植株を用い、2010年夏芽、2011年春芽の単年度成績である。
3. 追加立茎により茎葉が繁茂し、むれや病害虫が発生しやすい環境となるため、ハウス内環境（ハウス高さ、サイド・妻換気方法、畝数）や病害虫防除に配慮する必要がある。
4. 経営面積が大きい経営体において、現行栽培と組み合わせて活用できる。

[具体的データ]

試験区の構成

	追加立茎	かん水	収穫	栽培管理
中刈+追加立茎区	8月1日より、地上100cm高で茎葉を刈り取り後、約20本/m親茎を追加	8/1～9/14：週1回かん水 上記以外：同慣行	8/1～9/14：週1回 上記以外：同慣行	8/1～9/14：週1回 上記以外：同慣行
追加立茎区	8月1日より約20本/m親茎を追加	8/1～9/14：週1回かん水 上記以外：同慣行	8/1～9/14：週1回 上記以外：同慣行	8/1～9/14：週1回 上記以外：同慣行
慣行区	なし	基本毎日かん水、気象に応じてかん水量、間隔は変更	毎日1回	適宜（整枝、防除等）

表1 アスパラガスの夏季追加立茎による収量の影響

	2010夏芽 (8月～10月)		2011春芽 (2月～4月)		2011夏芽 (5月～7月)		年間合計 (2月～10月)								春芽収穫開始日						
	収量	1本重	収量	1本重	収量	1本重	総収量	1本重	可販収量	重量%											
	kg/a (%)	g/本	kg/a (%)	g/本	kg/a (%)	g/本	kg/a (%)	g/本	kg/a	可販	2L	L	M	S		A品	外品				
中刈+追加立茎区	27.6	38	17.9	94.6	185	23.2	99.3	174	18.3	221.4	104	17.7	209.4	95	20	43	16	11	4	5	2/18
追加立茎区	23.8	33	20.0	84.0	164	25.7	80.6	141	18.8	188.5	92	19.0	173.8	92	24	45	11	8	4	8	2/17
慣行区	71.7	100	20.7	51.1	100	20.3	57.1	100	18.1	179.9	100	17.2	165.1	92	9	41	20	15	8	8	2/23

※収穫調査期間:2010夏芽;;8月1日～10月30日、2011春芽;2月15日～4月30日、2011夏芽;5月1日～7月31日

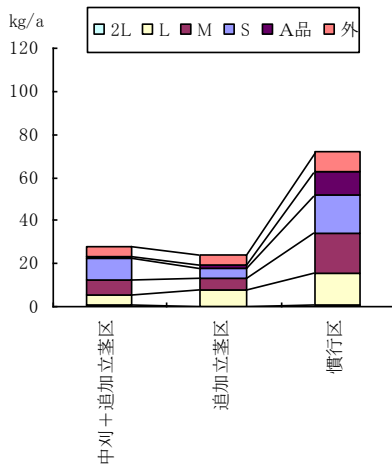


図1 2010年夏芽規格別収量 (2010年8～10月)

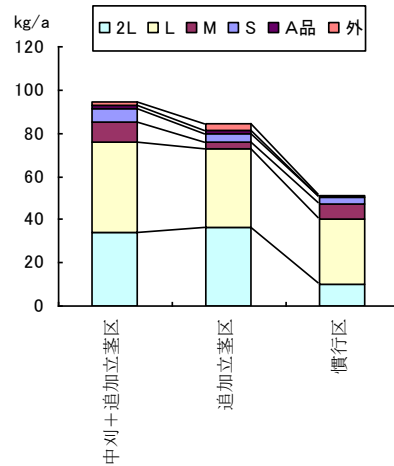


図2 2011年春芽規格別収量 (2011年2～4月)

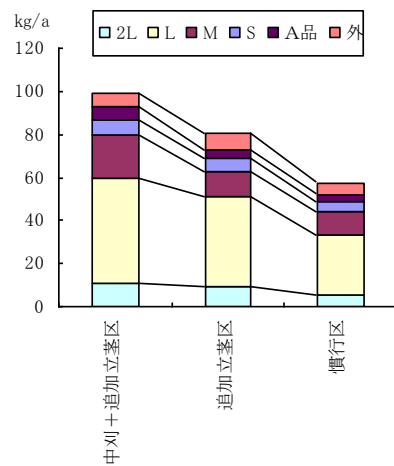


図3 2011年夏芽規格別収量 (2011年5～7月)

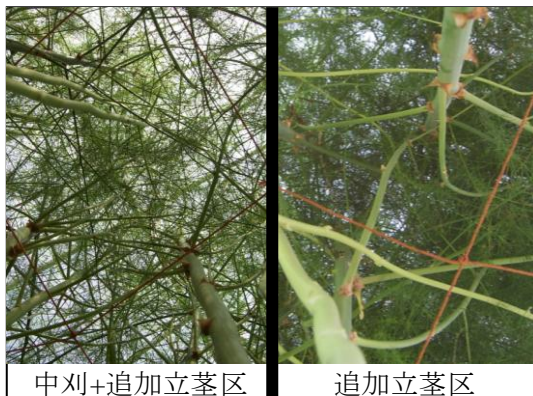


写真1 株直上の空間の状態



写真2 中刈+追加立茎後の茎葉状況

[その他]

研究課題名：アスパラガス有望品種の栽培技術確立

予算区分：県単

研究期間：2009～2014年度

研究担当者：陣野信博